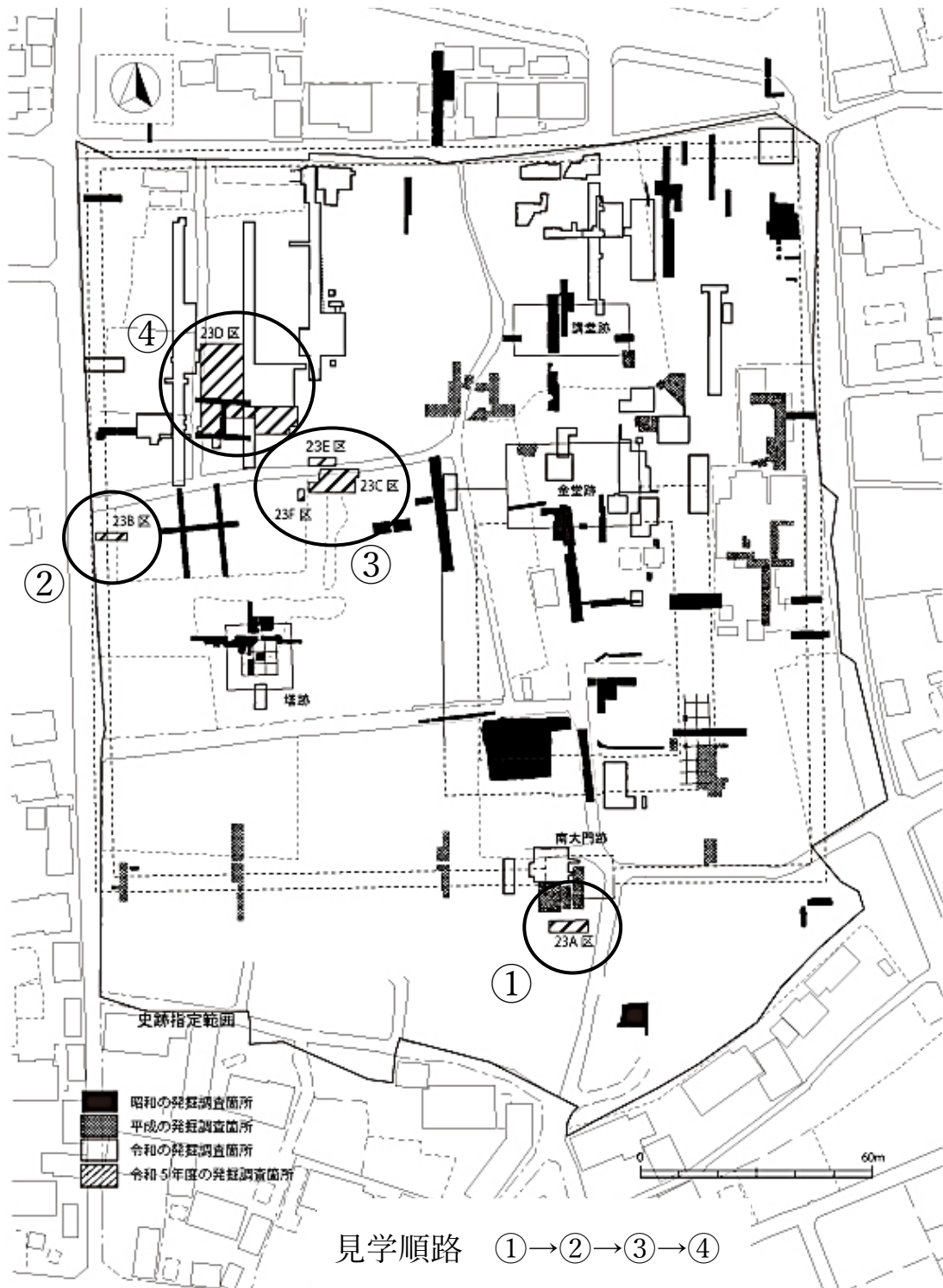


市教育委員会では令和元年度より史跡三河国分寺跡の将来的な史跡整備に向けた確認調査を実施しています。

最終年度となる5年目の今年度は、南大門跡南側、西面築地塀跡、(仮称)西北院東南隅、(仮称)西北院の調査を実施しました。



見学順路 ①→②→③→④

### ① 23A 区(南大門跡南側調査区)

南大門の南側に表参道や幢竿支柱<sup>どうかんしちゅう</sup>があった可能性を検討するために、南大門の南側に調査区を設定しました。残念ながら当該箇所からは三河国分寺跡に関連する遺構は確認されませんでした。

### ②23B 区(西面築地塀調査区)

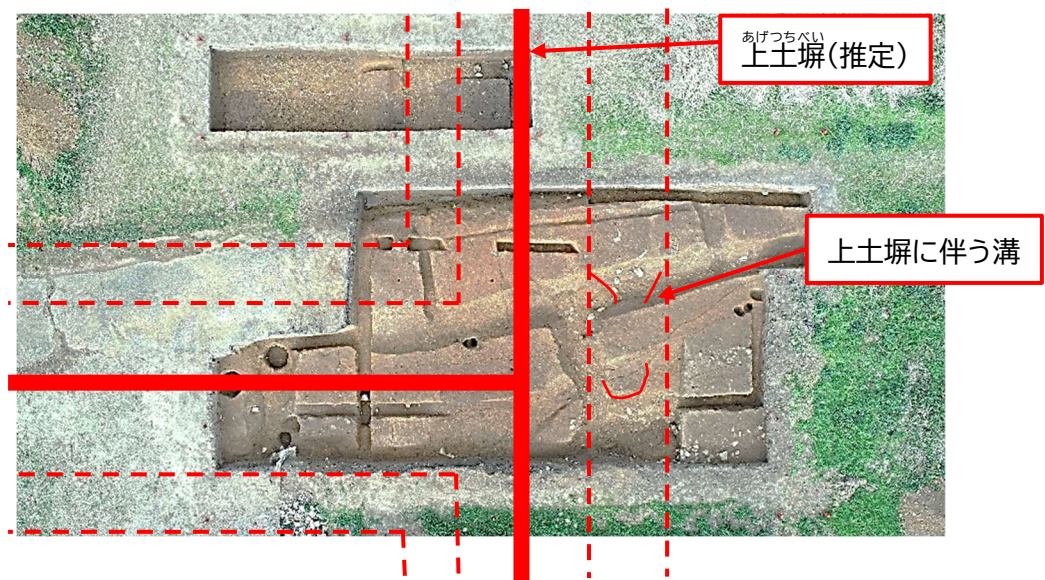
西面築地塀想定箇所には土塁状の高まりが現在も残っています。この土塁状の高まりの中に西面築地塀の一部が遺存している可能性があったため、西面築地塀の状況確認のため土塁状の高まりの一部の断面調査を実施しました。その結果、後世の開発や植物の根などによるかく乱・削平を受けながらも、西面築地塀と築地塀基底部の一部が遺存していることがわかりました。



### ③23C・E・F 区((仮称)西北院東南隅調査区)

(仮称)西北院はこれまでの調査で東辺、西辺、南辺、東北隅を検出しています。今回の調査では、全体の規模を把握するため、東南隅の調査を実施しました。調査の結果、3回にわたって塀や溝の位置を変えていることがわかりました。特に第2期(8世紀末～9世紀前半)では、塔がある南側にも西北院の南辺と共有するように塀や溝が展開することがわかり、塔院を形成していた可能性が考えられます。

第2期の様子



#### ④ 23D区((仮称)西北院調査区)

(仮称)西北院の状況を確認するため昨年度に引き続き(仮称)西北院の内部の調査を実施しました。調査の結果、合計8棟の掘立柱建物を検出しました。昨年度の調査でも検出しているSB1は、今年度の調査で西端を検出し、東西規模が11間であることがわかり、三河国分寺跡で検出されている建物遺構の中で最も長大なものとわかりました。

また、調査区の中心部分からは2基の大型掘方を検出しました。この大型掘方の具体的な性格は不明ですが、<sup>どうぼん</sup>幢幡を掲げるための<sup>どうかんしちゆう</sup>幢竿支柱の可能性があると考えています。



想像図

<sup>どうかんしちゆう</sup>幢竿支柱のイメージ

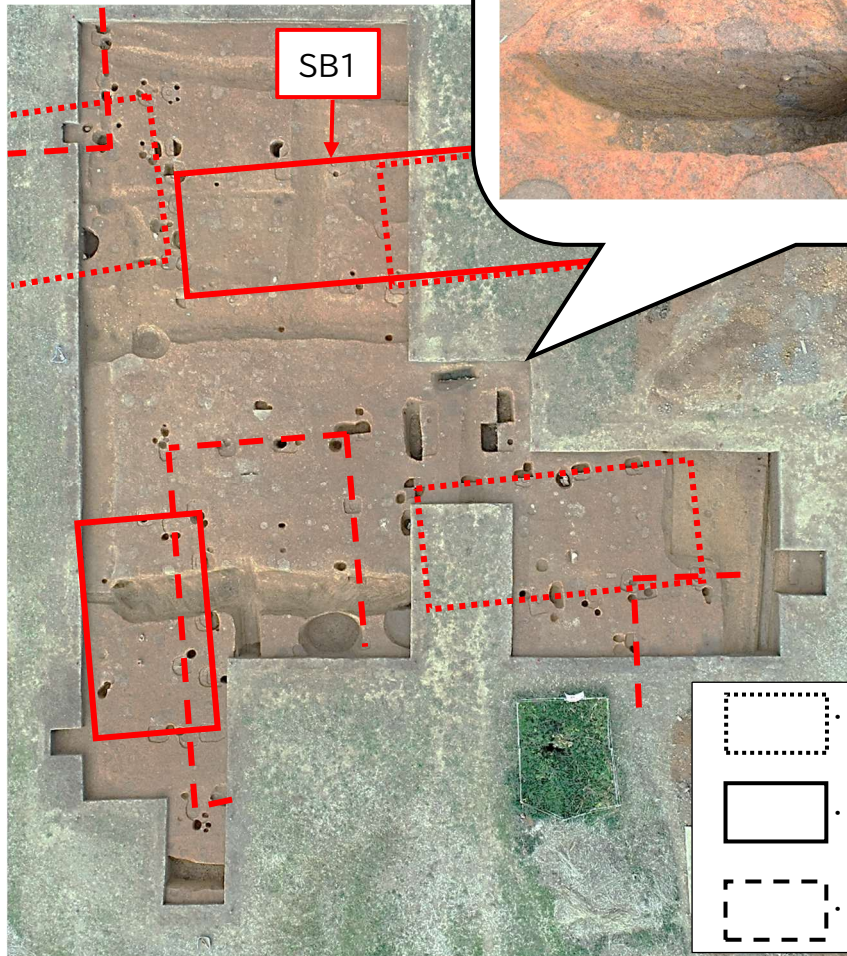
(大垣市教育委員会 2005 より)

<sup>ほりかた</sup>大型掘方

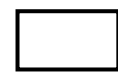
No.1



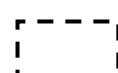
No.2



… ~8世紀半ば



… 8世紀末~9世紀半ば



… 9世紀半ば~10世紀初頭

## 【用語解説】

**伽藍**・南大門、中門、金堂、塔といった寺院の主要建物の総称

**築地塀**・土を堅固に積み上げ造り上げた壁体の上部に屋根(瓦)を設けた構造の塀

**上土塀**・土を堅固に積み上げ造り上げた壁体の上部に板を並べ、さらにその上部に土を載せた構造の塀

**掘立柱建物**・地面に掘った穴に柱の根元を埋め、柱の周囲を土で充てんした構造からなる建物

**幢竿支柱**・幢竿とは寺院の法会などの儀式の際に使用された幢幡と呼ばれる装飾を掲げるための竿のこと  
とで、幢竿支柱とはその幢竿を支えるための支柱のこと

## 【コラム 塔院 陸奥国分寺と三河国分寺を比較して】

今回の調査で、(仮称)西北院を区画する上土塀に伴う溝は、(仮称)西北院の南辺よりさらに南に延びることから、塔を塀で囲む塔院が存在した可能性が浮上しました。国分寺から塔院が確認された例として陸奥国分寺の伽藍配置をみると(図1)、塔院は塔を中心に塀が囲む様子がわかります。三河国分寺の場合、今回の成果をもとに塔院の位置を推定すると(図2)、塔を中心としていないことがわかります。しかし、塔院の塀の位置に着目すると、東辺が寺域の西から3分の1の位置にあることから、塔を意識したものではなく、全体のバランスから塀の位置を決めたものではないかと考えられます。また、当該箇所にはかつて谷筋があったため排水も考慮された結果であると思われる。

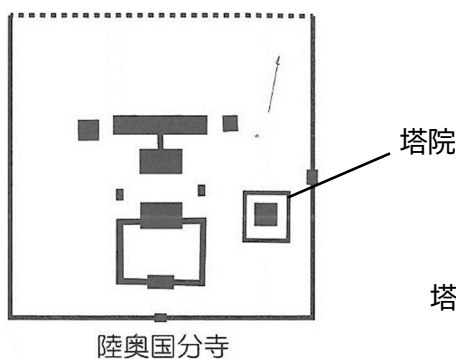


図1 鈴鹿市考古博物館 2022 より

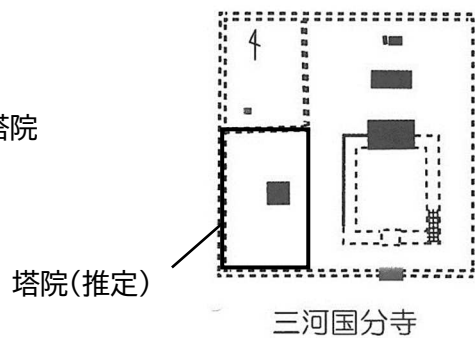


図2 鈴鹿市考古博物館 2022 より

## 参考文献

大垣市教育委員会 2005 『美濃国分寺跡』

鈴鹿市考古博物館 2022 『伊勢国分寺跡史跡指定 100 周年記念 秋季特別展 国分寺 図録』

## 三河国分尼寺跡史跡公園のご案内

三河国分寺跡の北東約 300mの場所に三河国分尼寺跡史跡公園があります。中門・回廊の一部の建物を復元し、三河国分寺・尼寺跡、三河国府跡、船山第1号墳などの出土品を展示する三河天平の里資料館を併設しています。三河国分寺塔跡木製基壇の模型や塔の水煙の展示もあります。

住 所: 豊川市八幡町忍地 127-1

開館時間: 午前9時から午後5時まで

休館日: 毎週火曜日・国民の祝日の翌日・年末年始

入館料: 無料